

自由連合

Liberal Federation

No. 40.3

1972 10.15

姫路市亀山354

自由連合社

電話：大阪1264

お茶を濁したと言われても仕方のない紙面となりました。編集社員と称していても、やはりよくには何も言えません。ムニャムニャ（生）

自連は何だったのか

40号（その2）アンケートより

〇く、お読みください

鈴木敏春

Aアジトに行く前も後も、私の自連に対する印象はかわりません。わずか二日たらずしかいなかったのですが、私たちの工房作りのときと同じような風景に目撃しました。あそこに行けば何か……。そういう甘えに似たロマンチズムがはびこっているように感じました。

このロマンチズムを破砕しないがぎり、私たちの仕事場は仕事場としてなりたない。でも、自連の、労働を通しての共同作業は、大変すばらしくみえました。

自連は、ミニコミ運動・関係の創出を、すばらしく戦線的に担ってきたと思います。しかし、商業雑誌が膨大な資本で、若者とか反体制を奪っている今、ミニコミの全国的な問題提起は破産しているのではないのでしょうか。すでに、『自立誌』といわれるものになりえなくなっていると思います。私は、友人たちとの関係の中から、工房への具体化をさらに進めていくことにしている。それは、運動とかいわれているだけのロマンチズムを、現実の労働を通してこわすことです。また、自立派とか言われる知識バカとの訣別です。『だべりの趣味の会』とはなりたくないですね。

116の自連を

O・A

私としては、自連は解体すべきだと思います。自連は、組織論——不定形主義、革命論——コミュニティ型社会論、運動論——共同体形成主義、方針——大衆運動主義云云の不十分な解説書にすぎなかつ

たのではないかと、私には、その上、私にとり終始気分転換の感を出なかつたし、ある時期には、日和見主義的であると思いましたが（実践面ではなくイデオロギーに関して）。又、自連は人間の共同観念の次元に於て以外の共同性をも目指していたように思えるのですが、現実には、退化している状況として表出されていると感じました。

私は第三者的に観察者としてしか関ることができなかつたのですから、批判は勿論、アンケートを書くことすらおこがましいのですが、百歩ぐらいゆるずってもらうと、宮園さんとある程度共通視覚をもつことが出来ます。私はH・アルヴォンと同様、アナキズムは政治的には駄目になっていると思う立場ですが、その方針面のウーミング・アップの前に、まず理論面において、赤色革命思想の矛盾を突破すべきであつたと思います。新たなイデオロギーづくり。自連は、そのもっとも根本的なことに無関心であつたように見えます。

私は、現在、日本のアナキズム運動が、どういう状況を呈しているのか知りませんが、もしも先日の名古屋のテロルとか、排他的なもののみに帰結しているのだしたら、自連を含めて、あらゆる運動を解体するのがいいのではないかと思います。無運動時代も大切なのかも。

岡山ババの自連

I・T

さう言へば、岡山の長船氏を一つの接点として、いつの間にか自連と妙な関係を結んでから二年は過ぎてゐる。一方的に「読むところまではやる」と言った意志薄弱的態度に甘へながら、かつての情状へのめり込んだ日々を若さを感じてゐる今の私には、たとへ半句なりとも口をきける立場に立てるものではないでせう。ましてや、大阪Aアジトと目と鼻の先とも言ふべき奈良に住しながら、他の自連関係者からの集会その他の

社告

東京読者会

日時 一〇月二八日（土）

午後六時より一応一〇時まで

場所 渋谷・道玄坂（テアトルホール向）

名曲喫茶・ライオン・地階

（当日は併り切つてあります。尚

TELEは03-461-6858です）

会費 コーヒー代程度

（場所柄、二次会々場にはこと欠かないそうです）。

問合せは、回03-256-5789 井上

孝雄（夜九時以降）まで。

けヨチラパーティーは取止め。この

読者会を打上げ会にしたいと思ひ

ます。尚、大阪からは、杉原哲生

（黒川通）が参加します。

自連復刻台帳本

自連社版「自由連合」の台帳本を制作中です。056号など、復刻しなければならなかつたので、

★0510号台帳 一五〇〇円（共に予備

★0540号台帳 三〇〇〇円（送料込み

申込みは、自連大阪内吉川建一まで。

「招き」一度も応じたことのないこの自連落な生活をひっさげて、どこでおめおめと発言などできるものでせうか。しかしながら、かう言つた読ませ続けてゐるだけの自連でさへも、その舞台空間から創出される、他の自連関係者との繋がり、たとへ一方的であるにしても、一種の連帯意識の醸成と、行動的でも知識的でさえもない私のような存在に対する、闘うためのバネの微細な温存を果たしてゐることも事実である。宮園氏の指摘は的を得てゐると思うが、運動を続けることによる流動性は、過去を、もしくはそれによって作られる現実をも隠蔽する恐怖を有する。無党派もしくは非党派であることは、たとへいかなるものでも運動体であるがぎり、カタチをもつかぎりありえない。とすれば、思想だけが妙な現実観を生む状況である。前に一度は無責任に筆にしたこともあつたが、かう言つた意味合ひから、自連の解体は一つの進歩であることも事実である。

る。翌日あたりにでやめる話が出てあつた。つまり「どういうふうにつぶすのか」が問題になつていて「なぜつぶすのか」の方は、なんかまだつかみきれない感じがする。

自連の意識について

N・H

僕の今までの自連の読み方と云へば、まず一通り、ペラペラと自連に目を通し、その中でおもしろいところだけを読む。そんな週刊誌を読むような読み方で、もちろんアンケもほとんど出さなかつた。ところが、自連を八創造的Vにつぶすという段になつて、俄然、読面に活気がでてきたし、今までの自連とは自分にとって何であつたか、またこれからどんなに発展していくのかと真剣に考えるようになった。そういう意味では、自連をつぶすことに意義がある。

しかし、なぜ、これから発展し、連帯を広げようという自連が自らをつぶすのか。コタテマエと実態が離れてしまつてゐる。自連は「周囲状況と自連のギャップを感じる」(自連40号そのス)など理由が考えられるのであるが、もし自連をつぶすことに、このような理由づけをしたのでは、自連はつぶれたことになる。なぜなら、このような理由づけには、自連がそのために自然につぶれるか、あるいは、その修正をおこなわなければならぬような意味を含んでおり、(また他のどんな理由にもあてはまるが)それでは八創造的Vに自連をつぶしたことはならず、つぶれたことになるのではないか。これは僕の自連提起だか「なぜ?」に對する答はないのではないかと自連をつぶすことは、各自の意識において行なわれるものであり、これまでの自連を総括し、そして40号その1、そのス、と続く自連を送ってきたなら、封筒に入れたまへ自連を読まずに「ポインチ」箱の中に捨てることのできて始めて、自連をつぶしたことになると思ふ。

の提案には四つの理由が掲げられてゐる。①「もう三年も出している」は理由にならない。②「状況が変わつてゐるのに紙面はあまり変わつていない」は続刊する理由にしかならない。③「発行エネルギーがほとんどなくなつてきた」のなら、つぶすエネルギーも生まれてくるはずがない。④「読者も、自連を必要としていない」は、これのみが唯一の理由である。

X X

おおよそ、ある組織なり運動なりをつぶすには、次の二つの場合を除いて他にはない。

①新しい運動を展開するために、古い運動が邪魔である場合。脱皮。②運動の展開が困難に陥り、従来の形ではそれが不可能になつた場合。トカゲのシッポ。

さて、自連47月一日号外のP2は、おそらく読者の意見の典型的な3つであろうが、廃刊のとりえ方としては、いずれも②であるように思ふ。一方、P1の方、つまり「集社員の側はアイマイ。しんぞ」として現れてゐる困難な局面を「創造的につぶす」ことによつて打開する、欄を転じて福となす、②を①の「つぶす」として、願望してゐるようだ。

ところで、①も②も「つぶす」ということは、実は「続ける」ことの一方方法である。運動内容の直接的連続性が現れてこない時でもそう言える。そして「自連をつぶす」というのも、「続ける」ことを自論されてゐることは、号外の「なぜつぶすのか」を一読しただけでも明らかである。しかしながら「継承すべきもの」も「守るべきもの」も明らかにされてゐない。「それを明らかにするためにつぶす」というのが編集社員諸氏の言い分であつたか、果してそんな具合になるか?

X X

「つぶす」ということは結局「自連の喪失」によつて受けるショック感の軽減を社員に問ふ以外の意味をもちえないのではないかとするならば、一時的にエネルギーを引きだしても、それを定着しないしは転化することなく、使い尽くしてしまふのではないか。

勿論、そうした事を覚悟の上で一つのテとして休刊や廃刊をやつてみる、ということはあるだろう。しかしそれなりの効果もあるだろう。しか

し、現在のように「つぶす」ことが何となく特別な、秘儀めいた、全てを解決する方法であるかの如く扱へられてゐると、そうした危険性も口に出してしまふ。

X X

40号へのその1V「自連アジト」に結集せよ「Aアジト案内記」に示された具体的なつぶし方は、今までの自連づくりの方法を、より徹底させたものである。それで「やるべくしてやらなかつたこと」が、なぜやれるようになるのか? 廃刊ショックによつて発生したエネルギー以外に何の根拠もない。

さらに、このような「結集」が呼びかけられ、しかもこれが唯一の呼びかけであることは、自連47がAアジトでしか製作できなかった(印刷や送達のことではない)という最大の問題を不問に付す恐れがある。また紙面構成は、社内報的なものによつて多くを占められてゐる。これは何度が刊行されるといふ。とする、八内部の人間にしか意味をなさない、閉鎖された「自連」が刊行されていくことになる。状況と底面が離れてゐる傾向を問題にしなからそれをよけいに引き離す方向がとられてゐる。これこそ将来に財産を喰ひつぶすことではないか。

X X

結局「自連」は、39号の「自連」は特別号を最後として、そのほとんどが「つぶれた」というのが正しい表現ではないか。それは、事態が「つぶす」過程から「残務処理」の過程に入つてゐるからである。

つぶすことと、残務処理が同じだといふのは誤りである。つぶすことは、継承すべきもの、守るべきものを他の所へ運び出してしまふことであり、残務処理は、その後に残つた抜けがらの処理である。

いずれにせよ、明らかにすべきは、何が自連によつての「大事なモノ」であつたか、である。これが明らかにされないのなら、「何か、うしろめたい、うらめしいようなやめ方」の方か、「残念」といつ「念」が、残るだけ次のとかり加でさよならだろう。

何が自連について

村木 誓

「自連」37号の小川信氏の廃刊

自連 特別号 みにこみ付録 150円

天皇裕仁と三島由紀夫の幸福な死へ海賊版 250円

未練らしい

E.
S.

自連廃刊おめでとう。と言いた
いのだが、廃刊号がⅠⅡⅢ……と
出るといふじゃないか。全く未練
たらしいったらありやしない。し
つゝ過ぎるよ。もっとも、あなた
方がこんな未練たらしく出し続け
るのも、ある意義があると思つて
やっているといふことは、俺も十
分承知しているつもりだ。

つまりあなた方は、自由連紙を廃刊することにより、より新しい自由連紙をめざしてゐるのだと思う。そのためには、自由連紙のあり方を新しくとらえなおすために、廃刊号を何号も出す必要があるのだらう。

しかし、たとえそれによつて、あなた方の望む真の自由連合といふものが各地にできたとしても、それは観念的な自由連合の域を出るとは思へない。観念的な自由連合など無用のもの。インテリゲンチヤーのマスターベーションにすぎない。必要なのは実践的自由連合の方だ。俺には今の自連が、ただ未練だらしい女みたいなものだけが写らない。

そにから始まる

高井 孝

自連がつつぶしに参加でけんのがちよつと残念でありますが、こちらもちよつと忙しくなつてきておりますので、まあよろしいですわ。

宮園氏の言う「70年代に入ったのだ」というのが、感覚的にはわかる。このままでは自連は、何ら価値を帯ちてなくなるとはならないかという不安がある。つまり、70年代を先行する試行としては、もう存在しなくなると思う。

自連はつづいてはならない。つづいてのことによって、その作業を通じて、信頼できる関係の構築をしよう。編集者―読者―という固定された関係を、ながまの、あやしい関係に、音をたてて作りかえることが必要だ。自連はつづいて、そこからすべてが始まる、始まりはない。つづいたあととはどうなるか、そんなことはそのとき考える。

ミブーになったら

N.
R.

39号を出してから40号を出す、というふうないまがかり上、この次も出そうというよくな、そんな人なによくなつから自連が作り出さぬものならば、もし今の自連がそんなものなら、もはや自連の存在価値は、自連社員へ誰だろう? によってツマサシルところにはかないのかも知れませんね。でも40号がその1、その2……と続くのは、未練だらしくて、往生ぎわが悪くて、とてもいいと思います。

自連がツマレ切ったら、ほくもバツクナンバーを引っぱり出して読み返してみます。そういったものの感想文なんぞを送る残党事務所ぐらひは残しとくんではないか？

やはり門外漢

Y
H

Aアジトへ行かんでも社員になれると思つていても、長野の山の中にいて、ヒラケタ所から送られてくる自連を読んでいては、やはり内外漢の如き気持は否めません。なにやってんぬやろ、というような気持が拭きできないのは、私が「そのとき社員」ではなく、自連と自らの隣りを正確に定めることができていないたのと思ひます。

以後、自連がホンキで空中分解を
起すのなら、私は自連の存柱を消
す過程に於て隅りをもっていくとい
う、矛盾の關係を維持することにな
るよなと述べた。

エリウドではなく

S.
A

HOB通信（東大阪を平連）にて
自連を知ったのですが、少々おそ
ぎたみたいで、現在〃つぶし〃進行
中とか。ぼくも〃つぶし〃に対する
意見を書いてみたのですが、四部し
かみていない者が〃自連はどうのこ
うの〃などと言えるスジアイじゃな
いと判断して、送るのをやめました
にだ、機関紙というものだけであ
く、僕はすべてのが、まるくお
さまりニ三七拍子で終るのに不快感
を感じます。常にピリオドをうつ
のではなく、コンマである々まだと思
う。そういう意味で、自連の最後も

廢刊理由をズブズブなられたものにはしてはくれないような気がします。廢刊理由というのは、とかくうまくおさめがちなのです。

またどっから

出口ハナハ

ゝなにか書けゝときたから、今と
ても書けなれという手紙を出したら、
そ収がのっちゃったりして、自運も
ついに末期的腦軟化症がいなく。オ
シイヒトヲナワシタ。

ワニもこの夏、二度ほどAアジトとサルートンを訪ねたが、サッパリわからん。ワモリガラス張りの在界!! なんやらシンケンに考えているようにも見えるし、もっと樂觀的な風にも……。しかし、いろんな人がいろんな形でミニコンを出しはじめなのは、いいケーコウだろうな。自己満足をとろそろのりこえていけると最高やデエ! クロルタ↓自連↓自連↓つ・結局は、またどっかからおっはじまるんじゃないかな。

要するに、だれがどうでヤセイになるかだな。原稿集め↓カット↓スット↓アテナ↓発送↓整理という巨大な歯車にのれるやつがいなくなっただよ、結局は。そういうおいらなんか、はじめっからダメでけど。ところで、そろそろ向井氏の後継ぎ考えんと、あのお方が「コーコツの人」になっちゃったら、自由連合運動、やばいんとちがうやるか？

久保氏よ「ヤジ馬」ガンバレ！

續けるとしたら

M
•
K

なせつづすのかということに対し
私は編集員の方々の真意がわからな
いままです。自連社は元々「イズム
の危険性」の克服を狙い、多面的な
物の見方を續けてきた。元はアナキ
スト連合であつた自連社がつづける
ことは仕方がないのかもしれません。
私は、アナキストが組織のようなも
のをつくるのは根本的におかしいと
思っています。だから自連を續ける
としたら、普通の商業的機關紙の道
をとるべきである。しかし今の状態
では赤字が出るからとか、仕事が大
変だからとか、つづす思想の定義づ
けができたからとかでつづすのなら、
私は残念に思つ。

200 円

石の重く距離

M.K

急に、カンパしなければストップするといわれて、いささかおどろいたのですが、なんだか、圖書の料金切れ通告みないであもしろくないのです。君は、自由連合への志向をもっていないからストップする、という通告へ無言でもいいを待つにしていたのに、これは無情でしかありません。金を出せばいいっていうなら出さうじゃないか、とけんかを言う調子でカンパをする気にもなりません。ごまをみろ。

「自連」を殺す準備が着々とするんでいるそうですね。すいぶん前から読んでいるにもかかわらず、ぼくには身内のように感じられるのです。自連が関係の媒体であるのなら、それは、ぼく、と何か、との関係を形成しようとしているのですが、その「何か」は、ことばとか人の名前とかでしか現実のものにならない。それが大阪

は——の向の関係でした。思うに、「自連」は関西自連であるべきだったし、現実的にそうだったようです。自連にかかわる人間が社会の中に手で触れることのできる関係の網を紡いでいくことが常に、はじめにあるはずなのに、それを本編をひとつとらえてつかみどりしようとしてもおたがいに手がとどかないのです。石の届く距離、これが自連の基底にあると思ひます。だから、これまでの自連が肩を痛めながら無理して遠くへとばした石が自分の場所をみつめること、これがぼくたちのすることである一方、関西においてはすでに現実化したらしい接触を——どうするんだらう——仮死状態から救うことかな、とにかく関西と他の地区は自連の中においてはつきり異った地点にあるのです。編集担当者としては、手元の資料を振り出して地区別に編集をかけるぐらいしなくちゃいけないと思ひます。読者全員を大阪に集めてもしようがないのです。

二つというのは、一般的にのべた場合ですが、個人としてのかかわ

り方を問われたら、若干顔をうつむいて消極性である以上に積極性の欠除を認めます。相手がいないのです。論文となじみになるほど器用ではないから。

札幌まで転がってきた石をひろっても、どこへ投げればいいのか迷い、知らず、ふところへしまつてあたためておけるうちにおとしてしまうことが多いなんて、あまりはめた話ではありません。どうもこの頃いろんなものをなくします。先日札幌へ帰ってくる途中、列車の中に本を忘れてうになつて、あわててとびのつてとびおりに考えてみたら急いでおりる必要はなかったりして、ひじょうにはかけたことをしています。か、こつという自分の生活を守るのに、たいてい努力はいりません。なにもしななければいいのです。そういうものを阻止するのは、あなたにとつてもむずかしいと思います。力ではだめだし、勇気はそれ自体ぼくのゆきか門にならないし、こらえて下さい。

しあわせは どこにもある
勇気は だれにもある
だれど
しあわせは 勇気をあたえない
勇気はしあわせを
あたえない

ぼく、今どち

K.M

・ぼくが「自連」を読み出したころ「自連」はとても、おもしろかったように思う。そんな「自連」が「なくなる」へぼくからみれば、へつぷすへつぷぶるゝとは表現できないのなら、つづけてもらうよう、長い長い手紙を出したであらう。しかし、今、僕は、しつぷうなるへつぷすへつぷすを讀み、ただへつぷすのなら、はようつぷさんかいと思つただけである。きちんとしてつぷと、整理したりしているようだが、そんなことはいいから、だらだらとつぷぶしてしまえばいいではないかと思つただけである。

僕は最近まで、「自連」がつまらなくなつたと思つていた。しかし、これは内容のためではなく、僕の変化によるものらしいと思つた。二三年前の僕にとって、アナキズムという新分野に突入する知識吸収にあせていたころ、自連はまさしく僕の要求にあつたものであった。

しかし、アナキズムの正しさと可能性を知ってしまった今の僕にとって、自連はもはやそういうものではない。自連の内容は、かわつてきているにもかかわらず、僕の要求とはかけ離れたものとなつてしまつた。そのため、僕は自連をおもしろく感じなくなつてしまつたのである。(昔は、僕は仕事を手伝ひにかつたし、アンケも必ず送つていた。でも今は、アンケを書くのもいいかげんにしかやらない。これもそうです)。

解体してはくれない

草井 公英

「自由連合」はとうとうつづつとこになつた様である。この前「急編集会議」の通知があつたので、このこと出かけた時に「自連」をぶさやないかという提案があつた。この時は、意見が動揺してオソソツなことであつたが、今なお、動揺していることには変わりはない。要するに、よくわからぬのである。血井さんの言うことは、誠にこもつともと思える。しかし反面、とうにもあしひのである。

つづいたあとは、新しいものをとて、こいつは少々、何となく、あやふやなのである。(もともと可能性にかけ、こいつのが血井さんの主張なのだ)日本マキ連は、丁度この自連の根に自づ(全力を尽くす)と、解体した。その時の論議は今とは風が違ったと聞いている。(今回が主観的立場の中にあり、マキ連では主観的立場にあつたという違いはある。マキ連の自己解体は、現在に於て、積極的に評価し得ると思へない。今回にもさつぱり不白が残る。

ともあれ、自連は解体すべく走り出した。こうなれば、自連に代るものを創る代はしようがない。できるかどうかは、わからぬ。自連には、やはり解体して置くべき。だから、自連がつづつ作業は、手伝わない。(これは、決してもう自連を造るなどということではなく、反社会的なであります。つまり、最後の最後まで、立ち去らなければなりません。

ロシア革命の幻想

ーボルシェヴィキと労働者管理
モリス・ブリントン著・尾関弘訳
自連大阪でも取扱います 三五〇円

正直なところあまりピンと来ないのだ。おいらが平連からは、つきりアナキズムへふみ出したのは、自連を何号かまとめて送ってもらったのが一つのきっかけだったけど、「自連」の記事から直接影響を受けたというよりは、余りなかった（全体のムードからの影響は強いが）ので。内容的には、セクトほどではないにしろ固い記事（文）がまだ多かったのだから、おいらには半分もわからなかった。自連にもマシメな頭のカタイ社員がまだまだ多いんだと今思っている。

おいらは30号あたりからの読者で、投稿は一回したきりだが、アンケートは大部分書いた。その時から言えば、一応社員だったと思う。でも一番大事なのは、生活そのもののせいか、アナーキーに変えていくか、では？ だから、つぶすな、やめるな、という意見は他力本願的に思える。あれはあったで便利だし、なけりやないで、なんとかなる（する）というのが今の気持ち。

編集を担当してきたAアシトの人たちがつづいたのならそれで結構。彼らのやり方方法をつづせばいい。へつづす過程での彼らの議論は、正直なところ、よくわからないうが、でもこの時でつぶさざるのかなめ。ま、がんばってください。

藤井の最大の効果は、今まで何の反応も発行者に対しておこさなかった「社員」が、ともかくにも意見表明する気になったことだろう。なぜ「つぶす」では困るのかを考へることから、その人の新しい行動がはじまるだろう。もっとワイセリに迫るよう、シヤンシヤン投稿すべきだったと悔んでいます。（フジオ）

自連解体を知って、お手紙します。自連との機関誌交換をはじめて半年も経つてしょうか。砂川反戦祭における小川信こと向井孝氏の蝶恋花通信にかいた文章のイメージが悪かったのか、又SOSEI関西の知人達から聞いた自連のイメージからか、僕は現在まで積極的な交流を持てずに来ました。しかし自連の「新」なる機関情報紙としての役割は高く評価し

ています。

まあ今となっては、早く、自連紙の編集者諸君が個々の運動に従事されて行く事を祈っております。

まあ我々「鮮生」実践集団では反文化運動といった新しい面をようやく、一年半かかりで石神井に顕在化させて来ました。そして今、鮮生は一連の総括をふまえ、二次鮮生を結成しました。この様な方向性の上に立って、さらに自分自身を見つめた運動を行なって行きたいのです。（K・S）

僕は、自連紙を、さらに自連社を思うと、いつもある種の気負ったおすらしさを感じます。それは、カタケ、でもなく、めんどくさくとも違ったものです。きっとそれは「その時あなには社員である」という一行の文句なのではないでしょうか。そうだとしたら「新しいものをつかむための展刊」に対して、僕は社員ではありたくない感じをもちます。ただ思うのは、僕の感じた、ある種のちがひらしさを明確にしとかな、それこそ新しい何かがつかめへんやうということですね。（沢田慎平）

アンケートより・2

—自連の鎮魂歌—

自連は内々の喜びすぎるんだ。仲間意識が強すぎるんだ。初めの方から自連を知っている人にはよくわかるんだが、途中で読み始めた人は何のことやらさっぱりわからないのだ。つまり、ゆうふうせいがないのだ。視野がせまい。多くの人にわからせたいという考えがなく、仲間うちで喜びあっているのだ。向井考は自連をいかぶっている。自連の読者はそんなにいい人ばかりじゃないよ。自連なんか、あんなおもしろくないところなんか、知るが、知ったことがあるか、という人が多いと思う。（N・H）

つぶすつぶれるというのはどういう状態（関係）を言うのか、どうもはっきりしないようなのですが、。それでいて、コビのようにヒビが、コなせとのか、いろんな問題が出てきて「チャッ」となり、結局のど

ころぐるぐる空回りしているような、トボトボながら進んでいるような感じ。確かに資料整理とか問題提起をまとめるというのには重要なのですが、コつぶすというのにはあまりにも大上段すぎるのではないのでしょうか？ つぶれるのならつぶれていい、つぶれないのならそれもいいと思うのであります。（八嶋 潤）

私は自連の単なる読者ではないので、自分の作っている「市民連合」なんか、自連も参考にしている、啓蒙的かつせんだう的な新聞に、と思っております。新聞というものはどうも苦手で、今までピラ配りを感じたこと——一枚きりのピラでは読まない人が多から四ページぐらいのミニコミでやってみたら——を興行したわけで、今、才四号製作中です。なにぶん一人市民というふうな運動方針みたいなものが私にはあって、どうも自連とは違つような気がします。（S・O）

自連をつぶすかつぶさないかというところでボクの生活は変らないし、今は変えようと思わないから、結局ボクはどうでもいじと思つてゐるのだから、何かあつた自連送れというのにはヤシ馬根性なのだ。ぼくらの仲間もついでこの間まで「つぶすか、つぶさないか」というような討論をやっていた。ヘタ日シヤール連中も含めて「人位」討論はすくく疲れたし、今は「つぶれてしまつてゐる。正直ボクはトローンがイヤになつてゐる。ボクらの場合、ボクらの「一緒にいると楽しい」仲間という程度の思想がDIEC（共產主義青年団）の思想に全くのショックを受け、それに太刀打ちできなかった。にもかかわらずDIECに行つた人間が仲間の全員ではないことの当然のホーカイ。ボクは今でも自分の背中をDIECの思想がつつくのを感じてゐる。マシメチックなのは性に合わないのに、マシメになんきやなんのだらうか。あーだ、こーだ、イシイシと考へて、夕日シヤールもどんどん進んでいる。下層人民こそすばらしい、などと云つたボクは「そんなら、なぜなら？」と、まわりの仲間に見てもって示されてしまつて失語症になつてしまつた。スチスルなのであります。（あんど美代子）

LIBERATION FEDERATION

運動をつぶすとき、それは機関紙の発行停止だけとしても、運動を始めるとき以上の決意と辛抱強さを必要とするものです。(既に私も三つの組織をテッパ上げ、二つはつぶしましたが、残りの一つは一年半もつぶしてこなくて、ようやく無事つぶすことができました。)そしてその運動の真価は、如何につぶすか、つぶす過程でどれだけの課題を各自が引き受けていくかにあるのではないのでしょうか。つぶそうと思っただけでつぶすことのできるたやすさは、それはそれで魅力的ですが、僕は「身もだししながら成長していく」課程にこそ、個人・集団(連合)の発展の契機が内包されているのだと思います。(S・H)

④ いとこといえば、お手並拝見。つづすとかの理由は、とってつけたやうでぴんときません。つぶすのなら、ふっと消えてなくなるような形がよいと思います。あとのことはそれからです。とにかく、現在つぶすための作業が行なわれているのでしようが、自連40号その2の記事でみるかぎり、とてもつきあう気になりません。つぶれることはよいことであり、生まれることはよいことであり、さらに混乱することはよいことであるというのは僕にとって「公理」です。から、これらのごとに關してごちやごちやいわれると用口します。話は変わりますが、自連をずっと読んでいて、結局あもしろいかなのは、いわゆるニュースです。特に金ヶ崎を中心にした記事は、僕らのまわりではよくわからないことで、いろいろためになりました。(E・S)

④ カンパもしないのに自連送って下さって恐縮です。へ今度は「自連」を讀むたびにいつも自己表明しなくては、と自責の念にかられます。(非常にづらいことですね。書けないということは。)私が「自連」を知って幾年月、たった二ヶ月半。そして始めて送られてきたのが「つぶすデモ」という号外・驚愕! けれど「自連」つぶれても大丈夫な気がします。ひとがひとり行動するとその「ワ」はどんどんひろが

りますもん。「自連」を讀むことでのしか自分の存在を確かめられなかったら、かえって不幸なことかも知れない。行動するって、こわいこといっぱいありますね。自分のあいまいさと欺瞞性と、そんなものつきつけられてくるし、そのうえでなやみええか、こしーのポーズとりたいたし、そしてこの世の中を食ってゆかなければならない。とにかくつぶすというひとつの行為を通じて意志疎通がはかれるのは魅力だなアと感じている次第です。(I・S)

④ 自連がつぶれる、つぶすのではなくつぶれる。僕にはこのような根拠がどうかとさえきけない。それを自分自身とすべての自連構成員に対してわびたい。したがって、居直り的に考え、述べることを前もって承知してもらいたい。

1、自連は、はたして情報紙だったのか、それとも運動あるいは運動媒体にいうものだったのか? 理念においては後者であると思うが、現実にはあいまいではなかったか。それ故、継続的発行の内実がうすれ、単なる技術的継続へと陥り、自己解体へとつなびつたのではないか。2、もちろん私自身の責任もまぬがれない。しかし、自由連合とは、個別的なつながりがきわめて動的な、しかも個々の緊張関係において成り立ちうるものだ。それ故に、自連との訣別が、僕にとっては、今までのアイマイさを断ち切るためにもプラスであると考えている。今こそ、自分自身の内の自連をぶちこわし、再度、自分自身に立ち戻ることによって、僕自身がわかってくるような気がする。最後に、僕はアナキストではなく、エニリストであることを宣言して、自連の葬列に参加したい。(I・S)

④ 「自連つぶし」の積極性というヤリがボクにはトント解せなかった。それが再三いわれ、積極的につぶす。という実践の段になってもやっぱり同じことだったのデス。どう考えても自連はつぶすのでなくて「つぶれる」。「つぶす」なんていうのはやっぱりキケンではないかしらん? と思い続けてきたのです。それがやっと、40号その1の小川信の檄文で「人間関係」を追求して

ゆくという風な言い方をされて、いかにもつぶせそうな実感としてセマッて来ました。あくまでも、「つぶす」しキャンス。の主眼(?)が「人間関係」のことを前面に押し出していったから、少しはわかったような気がするのです。

在阪中の6月15日へ拡大編集会議で、ぼくは「自連はよくに」として別に有ってもなくともどうでもよいものだ」と言い、「他の新刊だとか総合雑誌なんかと別にかわらぬ情報源にすぎない」と続けました。それに対して、大山修作氏に「それやったらたとえ自連を讀んで僕だとか向井さんだとかをたずねてくることや、君や僕が知り合ったことに、自連は全然、関係ない」というんかしと切り返されました。

僕の場合、自連を知ったというのは、山鹿泰治さんの遺品整理の手法に行きつて向井さんと知り合い、その時に自連をもらったり、自連代の話、たとえ「杉原君」というのが奥裏的に一人で自連の事務をやっていたんだけど、今度やめると言うて「……」とかいう断片的な事を聞きかじっていたわけなんです。それでも、自連の讀者になるということや、自連の編集会議に同席するということや、Aアットをたずねるということは、僕自身があくまでしたことであり、他の自連の讀者と知り合ったり、大山氏を知ったということは、パーセントとしてはいさなないかもしれないけれど、その間には、自連が介在していたということは間違いないことです。

④ それでも落ち着いて考えてみると、その例として、大山氏のあげた自連を媒体々というよりも触媒と云った方が適切だと思えますが、例として人間関係というものは、例々ではなく、全く、という言い方にした方がよいのではないかと、思うのです。へどういう風にハッキリとつかまえた方が? (戸駒恒世)

④ あまりむづかしい言葉を頭の中でこねくりまわさん方がいいと思えます。最近の「つぶす云々」を讀んでいると気分が悪くなります。つぶす云々にかかわっている多くの人の顔色の悪さが目に見えるようです。確かに言葉にして文字化してしまえば、すべての物事は整理され、一見美しく重そうに見えます。しかし「次ページへつづく」

「前ページよりつづく」
し反画、その奥体といえ、整った言葉とほほ、様々な一定のターンの下にエネルギーがいしめきめいながら爆発をくりかえしている。自連とは、そういう個々の内に秘めてある様々な噴出するエネルギーに導きしめをえめう場としてあるのでは、と思います。個人が求めるエネルギーは、わかりやすい文章とかおもしろい文章とか、いかにかいきつけられるだけでなく、いかにかいきつけられない文章であつても心身に健康な人の書いたものに、もっとも強くいかれるのだと思います。つづす云々も論理上からの提起であるような気がします。本当につづすなくはならない時は、もっとちがつた創造的な面が強く出るだろうと思います。今号および先号のものには、そういう若々しさ、創造性が感じられません。
(H・A)

②

はつきりいつてようわからんのです。にどフリーリントとして、つづすしてもいいと思うのです。そして、向井さんや杉原さんがまじめにつづすことに取りくんではいらっしゃる様子は少しは分かりますが、私はつづれるという方でもないんじゃないかと感じたりもします。40号を出す気と力があつて、41号を出す気と力がある人がいて、そんなら40号が出る。41号は同様にその時、出せたら出す。だから次を出すことに責任を感じすぎる必要もなく、遊び半分でも楽しく一号ずつを出せたら、それでもいいんじゃないかと思ったりもしています。行きだれれもいいんじゃないですか。

私は大阪へ行けなくて、残念です。それは私が大阪へ行く気がないのかあるいは金や時間や親のために行けないのか、どうもそこそこは自分でも分かりません。しかし、尾道にいても、自由連合は出来る。そう信じる以外ないんじゃないですか。いくつもの人間が互いに重なり合う部分を持ちながら、無限の力を出してゆける。そう信じることにしましょう。私も尾道でがんばりまっせ。みなはん、お元気な、おはまた。
(白水 類)

LIBERAL FEDERATION

ワスス事には賛成。しかしながら割りきれぬ所もなきにしもあらずなのです。

五月の沿津合宿で、なんでワススのかという事を向井氏が云っていたのです。それで論理的には、判つたのですけれど、理解してなかったらしく、イザとなると、ビビッてしまったのです。

私と自連との関わりは、関係をつくるといふ事を主としていたのです。思うに、此処へ自連をワスス時兵にあいてで私みにい、実質的に運動をやっている人間は、何かせねばならないのではないかと思うのです。其処に私の焦りがあるのかも知れませんが、現在、時間があるのであれば、金の方がないので大阪へ行けません。金が出来たら行きにいといます。
(K・K)

③

「自連」に深刻過多症を感じていた僕が、Aアストに入った時、重苦しい空気のよどみがドツと僕を包みました。

全員が同地平面では無く、「倫理家が迷える君の悩みを例にやってみていな段違い。
この空気がそのまま「自連」に反映しているとすれば、これは廃刊への段違いです。

そして「その空気をどこまで突破できるか」その時君は社員であるという思い込み。

ちやうど、実は何もしてない僕が新人を右に欠する時のような段違いの行為があつて理論はそのあとに言いかけて出てくる。「自連」には些細なことをして長大な理論を述べる気遣いがあつたのでは。
(甲斐 一)

④

自連は用かれた場であるべきだったのが、作り手を受け手というふうにならねんし、連帯をはかることもできない。「そのとき君は、」などと言つても、絵にかいたモチにすぎない。編集しているのは大阪近辺の若ばかり。顔ぶれも知れている。誰もが編集社員たりうるための技術的なことをもっと考えなあかん。

生活に負担がかかる遠距離の者には交通費くらい支給してもいいのでは

ないか。大阪から遠くはなれた者は不利だ。情報を等しく共有でけへん。一部の者の占有物になってしまう。それがますます自連をダメにする。また、旧アナ連を解散に追い込んだ向井氏が、全国のアナキストの連帯をはかる場として自連を作ったことと自体おかしい。結局は旧アナ連の延長上にしかなかったのではないか。今の自連は、名称だけの形骸にすぎない。自連として、アナキストとして、明確な主張を打ち出さねばならない。闘うために、自連は発行されにはずや。

⑤

最後に、41号を出せるように努力してほしい。自連の真の再出発を願う。
(S・K)

自連紙が終刊になるという。それが、反国家を志す少数の人間の、意志と感情の交通する広場となりえていたのなら、その物理的終刊は、残念である。
自分の生きざまを自ら採り、自己の人生をのみ支配しようとするものが、必然的にある瞬間に体験しなればならぬ国家権力、国家意志との拮抗というものが、そういう自覚に立った主体を各個にむすぶゆるやかな連合体の創出は、生理的にも必要の一つの機能である、と私は思う。仮にそれを青年アナキスト連合としても構わない。

自らを痛めつけることでしか証を以てられぬ稚劣な政治行動をこえた、あ、ら、か、で、ふてぶてしいエゴイステイックな反抗者の連合体の創出を、私は夢想している。

自連の終刊という時期に便乗し、総括的に、手前勝手な夢想のべらというものは、余りにもイイカゲンすぎるだろうか。
(大野直治)

編集メモ

①のぼく自身の自連総括を載せるはずだったのに、結局アンケだけで紙面を埋めてしまった ②アンケを見てみると、人それぞれ、さまざまな自連紙への見方があることに改めて感心させられる ③製作上の手違いで、アンケの掲載方法に差があったこと、お詫びします ④自連もいよいよ臨終真近、40号の4(終刊号)では自分の責任果たしますデス ⑤読者会参加もかねて、近く東京へ行きます ⑥一足先に、黒川遥(鹿名私事ながら御報告します (杉原)

告 非暴力セミナー

杉本 啓生

人がつくりたい社会へたとえば、わいせつという

ゲリラシアター

リタータラッタ、ターター……九月十七日、広島・平和公園に、突如「星条旗」永遠なれが鳴り響いた（ちよっと大袈裟）。米人を含む三人の男がドラ声張り上げ、数メートル離れて八人の男女が座っている。広島非暴力セミナー最終日、ゲリラ・シアターの開幕である。

このセミナー（社会変革のための非暴力実践技術訓練とでもいうのか）は、九月一四日から一七日までの四日間、約四〇名が参加して行なわれた。訓練者は、チャック・エッサー、クリス・ムーア、という二人の米人。日本では初めての試みである今回は、東京で数度、奈良・広島で各一度開かれた。

なんだ、なんだ、と立ち止まる人々の前で、このゲリラ・プは、自衛隊をテーマにした寸劇を演じた。米軍と自衛隊の司令官同士が、多くの死体をまたいで立ち、「ピーク」とVサインを上げたのを合図に、観客との討論・対話が始まる。実は、このゲリラ・プの中に、くもいて、あっさり戦死する自衛隊員という甚だカッコワルイ役で、見ていた子供に砂利を浴び撃たれた次第。同じ頃、広島市内の繁華街では、二つのゲリラ・プが、各々瀬戸内海汚染「女性差別」をテーマに、寸劇と街頭討論を繰り広げている。

このゲリラ・シアター、企画・準備・練習を周到に行なえば、実際運動にすぐ役立つと思う。街頭演説やドラマと組合せると一層効果があるだろう。また、ぼくらのセミナーの上意のあと、警官が現れるという「予定通り」のハプニングがあったが、彼らはあっさり引き上げざるをえなかった。短時間でもやれるだけに、警官が制止に来ても交渉している間に終えることが可能だし、あちこちに出没することもできる。まさに、ゲリラ的にやれるのだ。

タンタンクの銀の弾

このセミナーで行なわれたことをいくつか抜き出してみよう。
i) ? (名称を知らない)ゲーム。各

概念のない社会、国境のない社会、などを挙げる。次に、小グループに分かれ、その中の一つを選んで、暴力的あるいは非暴力的に目的を果たすための作戦計画を立てる。ぼくらのゲリラ・プは「天皇制のない社会を暴力的に実現する」というのに挑んだのだが、天皇暗殺・交通通信網攪乱などで東京をパニック状態にし、一斉蜂起して臨時革命政権樹立、という「初期赤軍派みないな」作戦しか立てられなかった。わずかに、全国の戸籍簿焼却、がちょっぴり独創的という程度。××粉砕や△△阻止ならともかく、何かを創り出すというのはどうも苦手だ。つくりたい社会を「××のない社会」としか表現できないことにも、それが現れているようだ。

ii) ロール・プレイ。言わば役割演劇。ぼくらは次のような設定で行なった。場面——相模原補給廠前。役割——輸送阻止派の市民（非暴力）、機動隊、煽動者（初めはわからない）、役割ごとの打合せのあと開始。ぼくら阻止派は、ダイイン（死に込み）と座り込みをして、歌（タンタンタヌキの音）を歌っている。機動隊が襲いかかり、引っ張る、殴る……。最後まで残ったぼくらは、わりと興奮して必死で座り込んでいたが、煽動者たちは随分シラケていたらしい。場面設定などによっては、不自然さが目に立ってしまうのかも知れない。また、この訓練者たちは、役割（立場・機能）と人間とを区別すること、強調している。役割は否定できても人間は否定できない。警官と対応するときも、警察という役割に対してでなく、人間の面に働きかけるべきだ、と繰り返し返していた。

ひとのふりみて

ぼくがこのセミナーに参加した目的は、大まかにいって二つあった。一つはきわめて個人的なことで、自分の行動様式を変えるきっかけをつかむこと。もう一つは、会のつくり方を盗んで、さしあたり「自連ぶ」つづき「キャンプ」に活かすこと。

行動様式の方は、マメに身体を動かしたり発言したりはしたものの不十分。会のつくり方に関しては、参

レーンストーミング。これは、そのテーマに関する意見を思いつくまま出し合う（この間は、批判も質問もしない）。②列挙された意見に対する批判や質問を通じ、グループの意向を決定する。という方法。これ

がすぐれているのは、①アイデアが出やすい。②議長が要らない。③有

力者の意見が偏重されることがない。などだろう。また、時間を力

三手先を読んで

チャックもクリスも殆んど宗教員さはなかった。それでも、非暴力の

基底には信仰上の信念があると言う

（彼らはクエーカー教徒）。そのせ

自由連合を

祭る文

正道 大沢

歳は一九七二年に在り、八月某夜、炎暑熱風に光化学すもつぐ霞う時、一星茫焉として墜ちて警あり、嗚呼自由連合ふたに死す矣、而して其苦悶の歴史は長くわれらが肝に命じられぬ。

嗚呼自由連合の事、われら之言に忍びざるものあり。想う五年前、日本アナキスト連盟解散の壮挙を遂げ、自由連合また廢刊の辞を發する時、祖宗在天の靈は赫として汝自由連合を大地に下して、其孤々の声を揚げ其の烈々の氣を放たしめたりき。而して汝の父母は奥にわがあなきすむの精髄たる自由連合の正氣なりき、奥に混迷の世界を振盪せしむる大反乱の潮流なりき。

是を以て汝自由連合が自由連合の爲に戦ひ、文明進歩に對して反乱するや、義を見て進み正を蹈で懼れず、千挫屈せず百折撓まず、凛々たる意氣精神、真に秋霜烈日の概ありき、今やその姿なし悲しい哉。

汝自由連合が發行せらるや、版は歡聲をあげてこれを迎へ、忽ちにして讀者は千を越え、こんにやく版みにこみ最大の郵敷を誇るにいたり。曰く「一體ぼくらは何をやり出したのだらうか、たゞもう後もどりできないうへ創刊号」。

然り、汝自由連合はいたすら前進を遂げぬ。讀者大衆のほらんていあを一途に信解し、連合の輪の拡がりのすみやかなるを夢に描きて、いにすら前進を遂げぬ。

發起者向井孝をばじめとし、幾多編集に發送に奮奮努力せる志士に人の五臓を絞れる熱涙と熱汗は、奥に汝自由連合の糧なりき、殿堂なりき、歴史なりき。嗚呼當時誰か思はん、自由連合の死することかくも早きを。然れども今やその姿なし、悲しい哉。

汝自由連合や、初めやそのこみゆにけいしよんをもつて、衆の刮目するところとなる。曰く、君は讀者にして讀者にあらず、君は社員なり。君、自由連合を

の變身を迫まるあひいるなりき。さりながら、千の讀者はついに吾の社員を作らざりき。数千の郵敷はついに數百の社員を作らざりき。少數社員の五臓を絞れる熱涙熱汗や丹泥碧化今安くに在る哉。

汝自由連合や、初めやその組織論をもつて、衆の驚喜し、期待するところとなる。曰く、自由連合はせくとの機関誌にあらず、せくとに内づばを止揚する連合を体现するものなり。澎湃として起り、泡沫の如く消える諸多のぐるうぶよ、手を結べ、連合せよ、われらは微力なりともその手を助けん、と。毎号の伝言板、自由發言は、せくとに内づばの止揚に資するものなりき。さりながら、汝の悲願もついに政治の呪縛を解くあたわざりき。政治の呪縛に囚われたるを知らぬ徒輩は、汝自由連合を目して「自由連合派」と呼びぬ。甚だしきに至つては「向井連」とすら名づけて憚からざりしと伝へ聞く。その心性の陋劣度し難しといえども、悲しい哉、これを現実というものなりき。

更に想う。吾人夙に自由連合の讀者なりき。自由連合を發起し、發刊し、而して又推進せし幾多の志士に人の數人は吾人の知己なりき、尊敬指くあたわざる先輩なりき。さりながら吾人はついに社員とならめたわず、幾度か寄稿を求められしもついにこれに応ぜず、その冷淡、今省みて忸怩たるものなきにしもあらず。吾人もまた、汝自由連合のかくも急ぎし早死に、その責の一端を負うに非ざるか、と。

ここにおいてか、吾人一言所懐を述べずんば、いかで汝自由連合を祭るを得んせ。かつて古き自由連合を葬れる吾人は、あなきずむの精髄と雖も、えを疑うところより始むる覚悟の膽を固めたり。吾人は独り黒の手帖の孤暈に拠つて、あらゆる因縁を断ち、自らの向に自証を得んものと定めたり。想うに讀者なるものは千差萬別にあらずや。吾人が如きものは、到底汝自由連合の社員たらざるを得ず。然らば吾人は汝自由連合の讀者たるの

資格なき歟。嗚呼そは余りにも性急にあらず哉。

吾人も亦、連合こそせくと内づばを解消する秘鑰と信する者なり。されど、連合の成り立つが爲には前提がなからざるべからず。自立がえなり。政治の呪縛からの解放がえなり。而して自立といひ、政治の呪縛からの解放といひ、これが又頗る難事業なることは論を待たず。誠の自立成るや、連合は自ら成るに非ざる歟。人、政治の呪縛より解き放たれる秋、導かれずとも連合に行き着くに非ざる歟。眞実の孤獨、普遍に至るとは吾人の信するところ也。

今、汝自由連合を祭るにあたり、汝に注がれし幾多の熱涙、熱汗を想ひ、一言所懐を呈する者也。遍かりし苦言と言ふこと忽れ、吾人は信ず。自由連合死したりと雖も「オニ、オニの自由連合」の出現の向近きことを。

一九七二年八月一日
「前頁より」それが大変更なことだと思える。

帰阪中の尾関氏と、このセミナーや山岸会の特講などのやり方をとりいれて、理論合宿のをやってみようかと話したりもしている。すぐに活かせる方法がいくつかあるようだ。だが、合宿などの特殊な場でないところへの応用は、なかなか難しい。とにかく、自分自身の報告書をつくってしまふことと、会合の際に少しでも生かすことを心がけたい。

また、訓練者になろうという人が何人かいるそうなので、今後こうしたセミナーが広く行なわれるようになるかもしれない。読者の中には「非暴力」というだけで、バカにしたり毛嫌いしたりする人もいるだろう。だが非暴力は決して無力ではない。問題は、目的を實現することであり、そのための力と方法だ。くわずざらにはバカでかっている。こうしたセミナーが行なわれることを聞いたときは、ぜひ参加することを勧める。

☆東京・奈良・広島を通しての報告書が、現在作成されています。このセミナーに關心のある人は連絡してみてください。東京都港区三田4-8-19キリスト教会会報非暴力講話会「報告書」作成係。

☆「ぼく自身の個人的報告は、製作中のやけぼつといふ5月号に詳しく書いています。大阪府旭区高野郵便局留 杉原哲生。

LIBRA FeedBack